

よくわかる！

病害虫防除 マニュアル キャベツ編

そーだ、
にほんそーだに
そーだんしょう！



日本曹達株式会社

育苗期後半からの早めの防除が大切！

土壌病害・ネコブセンチュウには…

バスアミド[®] 微粒剤
使用時期／は種または定植21日前まで
使用回数／1回



適用病害虫名など	使用量	使用方法
苗立枯病（リゾクニア菌） 株腐病、萎黄病、バーティシリウム萎凋病 根こぶ病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg /10a	所定量を 均一に 散布後 土壌と混和

キルパー[®]
使用時期／（前作の終了後から）は種または定植15日前まで
使用回数／1回



適用病害虫名など	使用量	使用方法
バーティシリウム萎凋病	60ℓ/10a	※A
根こぶ病、一年生雑草	40～60ℓ/10a	※A・C
古株枯死、アザミウマ類蔓延防止		※B・D

※A 散布混和：所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
※B 希釈散布/灌水：あらかじめ被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
※C 注入：所定の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し、直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
※D 所定量の薬液を水で希釈し、土壌表面に散布または灌水する。（Dは60ℓ/10aのみ）



土壌消毒

育苗期

定植期

生育期（本圃での散布）

収穫期

TOPIC 1

■は種または定植前に根こぶ病防除を！

日曹 フロンサイド[®] sc
はくさい、プロコクリー、カリフラワー、
かぶの根こぶ病にも！
降雨直後の処理は、混和むらの原因と
なるのでさけてください。



TOPIC 2

■根朽病、菌核病防除には…

トップジンM[®] 水和剤
作期の前半に
たっぷり散布しましょう！



TOPIC 3

■定植後雑草発生前（定植後10日まで）
の雑草防除には…

フィールドスターP[®] 乳剤
活着後の全面土壌散布がおすすめ。
初期生育抑制を生じることが
あるので、薬量を厳守してください。



TOPIC 4

■近年発生が多くなってきている
アザミウマ類の防除には…

モスピラン[®] 顆粒水溶剤
アザミウマ類の同時防除が
可能です。



◎薬剤使用の際は、登録内容を確認の上、登録使用基準を遵守してください。 ◎本資料は、2026年8月現在の登録に基づいて作成しています。

は種～定植時の病害虫には…

日曹 フロンサイド[®] sc（29）


*苗床1回以内、本圃では1回以内

適用病害名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
苗立枯病（リゾクニア菌） 菌核病、根こぶ病	薬量：500ml 希釈水量：100～ 200ℓ/10a （※150～200ℓ/10a）	は種時または 定植前/2回*	全面散布 土壌混和
苗立枯病（リゾクニア菌） 菌核病、株腐病*		定植前/1回	全面 土壌散布

ネキリエースK[®]（1B）


適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
ネキリムシ類	3kg/10a	は種時または定植時/1回	土壌表面 株元処理

カルホス[®] 微粒剤F（1B）


適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
ネキリムシ類	6kg/10a	は種時または植付時/1回	土壌表面散布 土壌混和处理

定植期の害虫には…

モスピラン[®] 粒剤（4A）


適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
コナガ、アオムシ アブラムシ類	0.5～1g/株	定植前日～ 定植当日/1回	株元散布
ハイマダラノメイガ ハスモンヨトウ	0.5g/株		
コナガ、アオムシ	1～2g/株	定植時/1回	植穴 土壌混和
アブラムシ類	1g/株 1～2g/株		

アベイル[®] 粒剤（4A、28）


*約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ

適用害虫名	使用量	使用時期／使用回数	使用方法
アブラムシ類 コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ネギアザミウマ ハイマダラノメイガ	セル成形育苗トレイ1箱 または ペーパーポット 1冊*当り40g 1g/株	育苗期後半～ 定植当日/1回	株元散布

ベリマーク[®] sc（28）


*約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ

適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期／使用回数	使用方法
アブラムシ類 コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ヨトウムシ、ウワバ類 アザミウマ類 ハイマダラノメイガ ネキリムシ類 シロイチモジヨトウ キスジノミハムシ	400倍	セル成形育苗トレイ1箱 または ペーパーポット 1冊*当り0.5ℓ	育苗期後半 ～定植当日 /1回	灌注

キャベツ作りに、日曹製品がお役に立ちます。〔 〕RACコード

生育期の病害には…

日曹 ファンタジスタ[®]
顆粒水和剤


日曹 ピシロック[®]フロアブル


日曹 エトフィン[®]フロアブル


適用病害名	製品名	希釈倍数 または使用量	使用時期／ 使用回数	その他の 適用病害
灰色かび病	ファンタジスタ顆粒水和剤（11）	2000～3000倍	3日/3回	株腐病（2000倍）
べと病	ピシロックフロアブル（U17）	1000倍	前日/3回	ビシウム腐敗病
	エトフィンフロアブル（22）	1000倍	前日/3回	—
株腐病	カンタスドライフロアブル（7）	1500倍	7日/2回	—
菌核病	ベルコートフロアブル（M7）	1000倍	28日/3回	—
	ファンタジスタ顆粒水和剤（11）	2000～3000倍	3日/3回	株腐病（2000倍）
	トップジンM水和剤（1）	1000～1500倍	3日/2回	株腐病
	ゲッター水和剤（10,1）	1500倍	7日/2回	—
	アタッキン水和剤（25,1）	1500倍	14日/2回	黒腐病
	カンタスドライフロアブル（7）	1500倍	7日/2回	—
黒斑細菌病 黒腐病	アグリマイシン-100（41,25） マスタピース水和剤（生物農薬）	2000倍 1000～2000倍	14日/2回 前日/—	— 軟腐病
根朽病	ファンタジスタ顆粒水和剤（11）	2000倍	3日/3回	株腐病
	トップジンM水和剤（1）	1000倍	3日/2回	株腐病
黒斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤（11）	2000倍	3日/3回	株腐病
	カンタスドライフロアブル（7）	1500倍	7日/2回	—

日曹 カンタス[®]
ドライフロアブル


日曹 ベルコート[®]
フロアブル


日曹 ゲッター[®]
水和剤


アタッキン[®]
水和剤


アグリマイシン-100


マスタピース[®]
水和剤


生育期の害虫には…

日曹 フェニックス[®]フロアブル


日曹 フェニックス[®]
顆粒水和剤


適用害虫名	製品名	希釈倍数 または使用量	使用時期／ 使用回数	その他の適用害虫
コナガ、アオムシ ヨトウムシ、ウワバ類 ハスモンヨトウ オオタバコガ ハイマダラノメイガ	フェニックス顆粒水和剤（28）	2000～4000倍	前日/3回	—
	アクセルキングフロアブル（21A、22B）	1000倍	14日/2回	—
ハスモンヨトウ	ロムダンフロアブル（18）	2000～4000倍	前日/2回	—
アオムシ	ロムダンフロアブル（18）	2000～4000倍	前日/2回	—
	フェニックスフロアブル（28）	2000～4000倍	前日/3回	—
シロイチモジヨトウ	ロムダンフロアブル（18）	2000倍	前日/2回	—
アブラムシ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤（4A）	2000～4000倍	7日/5回	コナガ（1000～2000倍） アオムシ（1000～2000倍）
	アクセルキングフロアブル（21A、22B）	1000倍	14日/2回	— （ネギアザミウマ登録）

アクセルキング[®]
フロアブル


ロムダン[®]
フロアブル


モスピラン[®]
顆粒水溶剤


フェニックス顆粒水和剤、フェニックスフロアブルの無人航空機による散布の登録もあります。



キャベツ病害虫図鑑

病害

【灰色かび病 *Botrytis cinerea*】

圃場に落ちた発病葉上の病原菌や、地表面に菌核として残った病原菌が、伝染源となる。次期作では、そこから胞子が飛散して伝染する。結球部に灰色の胞子を密生した病斑を生じる。



適用薬剤 ファンタジスタ顆粒水和剤

【菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*】

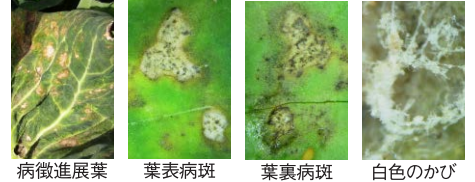
病斑部に生じた灰褐色～黒色でネズミ糞状の菌核が翌年の伝染源となる。



適用薬剤 トップジンM水和剤、ベルコートフロアブル など

【べと病 *Hyaloperonospora brassicae*】

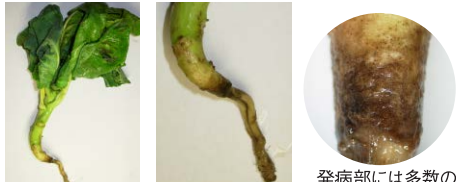
被害残渣で生き残った病原菌が、伝染源となる。次期作では、そこから胞子が飛散して伝染する。葉に不整形または葉脈で区切られた灰褐色の病斑を生じ、葉裏には白色のかびが形成される。



適用薬剤 ビシロックフロアブル、エトフィンフロアブル

【根朽(ねくち)病 *Phoma lingam*】

病原菌が発病茎葉とともに土壤中で越冬し、伝染源となる。地際部の茎に小黑点を生じ、茎が細くぐびれて枯死する。



適用薬剤 トップジンM水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤

【黒腐(くろぐされ)病 *Xanthomonas campestris* pv. *campestris*】

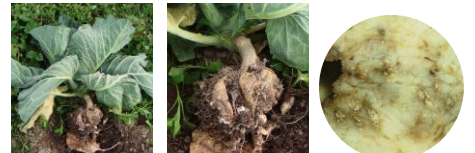
土壤中に残った発病茎葉内で病原細菌が生きて伝染源となる。次期作では、土はねに伴い飛散して伝染する。また、種子伝染もする。葉の縁にV字型や不正形で黄色の大型病斑を生じ、病斑は葉脈に沿って拡大し、黒褐変する。



適用薬剤 アグリマイシン-100、マスタブース水和剤 など

【根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*】

病原菌はこぶの中や土壤中で長期間生存し伝染源となる。大雨や農作業による土壌の移動で蔓延する。苗の根から侵入・感染し、定植1ヶ月後から根こぶがで始め、2ヶ月後頃になるとこぶは肥大し、葉がしおれ、生育不良になる。



適用薬剤 キルバー、バスアミド微粒剤、フロンサイドSC

害虫

【コナガ *Plutella xylostella*】

幼虫が葉裏から葉表の表皮を残して食害するので透けて見える。被害は春と秋に多い。年発生回数は寒冷地で5回、暖地で10回以上に及ぶ。



適用薬剤 アベイル粒剤、アクセルキングフロアブル など

【アオムシ(モンシロチョウ) *Pieris rapae*】

3～11月に6～7回発生、暑夏の8～9月は少ない。寒冷地では、4～10月に3～4回発生。1雌あたりの産卵数は300～400粒。



適用薬剤 フェニックスフロアブル、ロムダンフロアブル など

【ハイマダラメイガ(ダイコンシクイムシ) *Helicella undalis*】

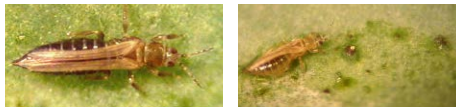
幼虫が芯部の葉を食害。このため枝分かれして結球が起こり、商品価値がなくなる。平地では年間6世代前後を繰り返す。高温乾燥条件では発生が多くなる。



適用薬剤 ペリマークSC、フェニックス顆粒水和剤 など

【ネギアザミウマ *Thrips tabaci*】

成虫及び幼虫が葉を吸汁し、これにより白斑、カスリやテカリなどの症状を呈す。近年幼苗期の加害により、苗が衰弱する被害も多く発生している。夏キャベツでは、特にねぎ、たまねぎの圃場に近接すると飛来により結球した内部に潜り込まれ、激しい被害が発生することがあるので注意する。



適用薬剤 アベイル粒剤、ペリマークSC、モスピラン顆粒水溶剤 など

【ダイコンアブラムシ *Brevicoryne brassicae*】

幼虫及び成虫の吸汁による生育抑制。モザイク病の原因となるキュウリモザイクウイルス(CMV)、カブモザイクウイルス(TuMV)などを媒介する。



適用薬剤 モスピラン粒剤、アクセルキングフロアブル など

【ナメクジ類 *Deroceras laevis*, *Lehmannia valentiana* (ノハラナメクジ) (チャコウラナメクジ)】

結球部に潜んで葉を食害し、黒い糞で葉が汚れる。苗床や地際部を食害されると枯死することがある。



適用薬剤 モスピラン粒剤、アクセルキングフロアブル など

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。



日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号

お問合せ (03)4212-9655

(平日9～12時、13～17時、土日祝日を除く)



HPIは
こちらから



LINE公式
アカウント